死亡事故ゼロ二千日

月潟中学校一年　井沢　めぐみ

私は、この月潟村が、死亡事故ゼロ二千日を達成したということは、すごいことだと思っています。

どこの村でも、二千日を達成することは、たいへんむずかしいことです。この村々で、二千日を達成した村はありません。とてもすばらしい記録を私の住んでいる村が達成したのです。驚ろくと同時に、とてもうれしく思いました。

ほかの村からくらべれば、とても小さな村ですから、ほかの村の人たちは、そんなの簡単ではないか。と思う人もなかにはいると思います。

でも、そんなことはありません。私たち人間は、いつ、どこで、事故にあうか分かりません。そのため、私たち一人ひとりが、十分気を付けていなければ、事故になる可能性があります。まして、都会などは、車も多いし、人間も多い。そのため、毎日、毎日休むことなく、事故のニュースが続いています。

なぜこんなことがおこるのでしょうか。みんなが交通ルールを守り、気を付けていればこんなことは、起こらないのに。

都会に比べ、この月潟村は、のんびりとした所です。しかし、いくら田舎でも、平和で豊かな暮らしができれば、あとは、何もいらない。こんないなかの月潟村でも、無事故でいられる。こんな幸せなことはないでしょう。私はいつもそう思います。

月潟村の人は、一日一日を大切に生きているから、二千日という長い日を無事故で暮らせたのだと思います。

私は、こんないなかの月潟村でも、月潟村が大好きです。

死亡事故ゼロ二千日を、達成した月潟村は、とてもすばらしく、また、名誉ある村です。そんな月潟村に生まれたことをほこりに思い、三千日を目指して、これからずっと、がんばっていこうと思います。

死亡事故ゼロ二千日達成

月潟中学校二年　小山　彩子

五月十七日は、この月潟村の死亡事故ゼロ二千日達成記念の日だそうです。この話を聞いたときは、千日達成からもう千日たったのかとびっくりしました。このときはとても素晴らしいことだと思いました。これは、月潟村の人々が、協力してやってこそできたことなのです。

交通のリズムを乱して自分勝手なことをしたりすると、交通渋滞や混乱が起きて事故の原因にもなりかねません。ちょっとしたことでも事故につながります。ハンドルを握っていながら、ジュースのかんをあけて飲んだり、たばこをすいながら車を運転したりするのは、とても危険なことです。話に夢中になって、とっさの判断がつかず、大事故につながることもよくあります。スピードの出しすぎで電柱などにぶつかって死亡したりするというような、自分の運転ミスから引き起こす事故もあります。

事故を起こしてから、反省して、今度からは気をつけようと思う前に、自分で心がけていなければいけないと思います。事故が起きてからではもうおそいのです。自分のミスで他人までが傷つくのは、とてもいやなことです。

加害者も被害者もこんな気持ちになるのはとてもいやだと思います。どのような場合も、お互いの不注意による事故が原因となっています。

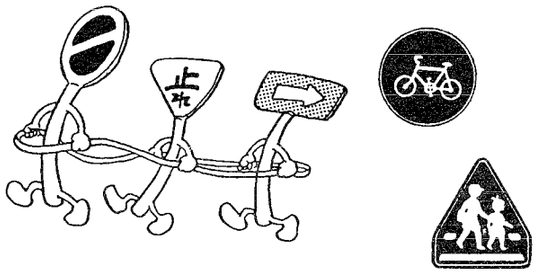
自分が注意していても、相手が割り込んできて巻き込まれるようなこともあります。自動車事故は、いつ、どこで、どんな形で発生するかまったくわかりません。人間の命とは大切なものです。

この世の中には、病気のためにもっと生きたくても生きることができない人もたくさんいます。健康で生きているだけ、ありがたく思わなければなりません。ちょっとした不注意で事故を起こし、命を失ってしまうことはとてももったいのないことだと思います。

最近、車に乗る時は、必ずシートベルトをしめるということが実施されています。シートベルトのおかげで命拾いをした人もいると思います。

大事故をまねかないためにもシートベルトの利用を…。

交差点での左右の確認、だれにでもいえることです。私も、自転車通学なので事故に気をつけたいと思います。



事故死ゼロ二千日達成記念文

月潟中学校二年　関根　貞佳

このことについて思うことは、前の一千日達成からもう一千日もたったんだなあということです。また、よく二千日間も、死亡事故をださなかったものだと思います。

いくら小さな村だからといって二千日も死亡事故をださないということは、簡単なことではないと思います。村の人の中のたった一人の不注意でも事故につながってしまいます。私の住んでいる月潟村に死亡事故がないので、テレビなどで死亡事故があったということを聞いても、身近な出来事ではないようで、何となく関係ないと思ってしまいます。事故にあってしまった人で、運が悪く、運転をしている人の不注意で事故にあってしまった旬は、とてもかわいそうだと思います。

私の東京の祖母も、その中の一人です。昔、横断歩道を歩いていて車にひかれてしまいました。それも、交通ルールを守り青の信号で道路を渡っていたのに。車に乗っていた人が何を勘違いしたのか、赤信号なのに突っ込んできて、祖母にぶつかってしまったのです。祖母は車のボディの所にのってしまい、そのまま車が走ってしまったため、またはじき飛ばされたのです。

しかし、運がよかったのか横の方に飛んだのでまたひかれずにすみました。祖母は腰から足までの骨が、メチャメチャに折れてしまい、それからは、四か月以上も入院生活を送ることになりました。

入院中はその足などに針金を通したりしてとても大変でした。もし、それが自分の身に起きてしまっていたら、きっと我慢できなくて何もかもいやになっていたと思います。

祖母は今、家の中さえ歩くことができません。何かにつかまりながらやっと歩ける状態です。私は、とってもかわいそうだと思っています。

祖母が住んでいる所は、車の通りがとっても激しいところです。もしも、もっと車の通りがゆるやかなところに住んでいたなら、そういう事故にあわなかったかもしれないなあとつい考えてしまいます。

そんなこともあって自分がこういう事故にあわないために、十分気を付けようと思っているのですが、何となく自分はそういう事故にあうはずがないとか思ってしまいます。だから時々、まあいいやと思って、止まれと書いてあるところを止まらなかったりします。しかし、それはいけないのです。みんながこういう考え方をしていたら、事故が度々起こってしまうでしょう。

やはり一人ひとりが気を付けることが第一だと思います。

私はふだん、事故防止のことなど、考えていたことはありませんが、今改めて事故のことなどを考えるようになりました。

自分なりにいろいろなことを考えてもみました。自分の命を大切にしたい、それは誰もが願うことです。もちろん私もそうです。だから、登下校の時や、ふだんでかける時は十分に気を付けようと思います。

自転車に乗った時、暗くなったらライトをつけることや、雨が降っている時、かさをさして自転車に乗らないようにすることなどの、ほんの少しの心づかいで、事故が防げるなら、面どうがらずやっていこうと思います。

交通安全について

月潟中学校三年　神林　美奈子

四月六日～四月十五日の十日間、春の交通安全運動がありました。私は、その期間中に、本当に中学生として、恥ずかしい思いをしてしまったのです。小学校の低学年位の人達がきちんと手を上げて、横断歩道を通っているのに、私は、左右の確認もせずに、飛び出してしまいました。幸い車も通っていないので、事故にはならなかったのですが、ちょうどその時は朝で、村の巡査の人がいて

「こらー！何をやっているんだ！小学生がみんな待っているのに！」と、大声で叱られてしまったのです。その時、私はとても反省しました。

「もし、あの時に、車が通っていたら」と、思うと本当に私は、危ないことをしたのだなぁと思っています。今考えても、ゾッとするほどです。

その他に私は、信号無視もしたことがあります。「信号は赤だけれども、誰もいないし、車もこないし」と、こんな軽い気持ちで、渡ってしまったこともあります。こんなことを思い出すと、自分はすごい違反をしてきたのだなぁと、つくづく反省をさせられます。

一般的に私たちのように、だんだん大人になるにつれ、「ちょっとくらい」と、言う気持ちが大きくなって、左右の確認、一時停止などの細かいことに注意を払わなくなってきているのではないでしょうか。その点、小学生の人達は、朝、交通ルールを正しく守り、手をあげて横断歩道を通っています。私はそれを見る度に、「ああ、私も見習わなければいけないなぁ」と、思ってしまいます。

月潟村の道路にも、ようやく歩道ができてきました。私は、この歩道が早くできないかなぁと、とても楽しみにしていました。なぜだかわかりませんが、とてもウキウキしてたまらなかったのです。

この歩道ができたときの喜びは、大きいものでした。今では、学校の登下校は、必ず歩道を通っています。歩道ができたおかげで、事故も起こりにくくなることでしょう。

死亡事故ゼロ二千日と言わず、もっともっと記録を伸ばしていってほしいと思います。それには、月潟村の村民全員が、これからも交通に気を付けていかなければなりません。

私も、これからは、十分に気を付けたいと思います。